

# 平成22年度 終了評価書

独立行政法人情報通信研究機構、

研究機関 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社、シャープ株式会社、  
株式会社東芝、東芝モバイルディスプレイ株式会社

研究開発課題 眼鏡の要らない3次元映像技術の研究開発  
(次世代・究極3次元映像技術)

研究開発期間 平成 21 年度

代表研究責任者 榎並 和雅

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

■ 総合評価点 : 41点/60点

(総論)

1年弱という短い期間ではあったにもかかわらず、基本計画書に沿った成果を出せており、一部においては世界でもトップレベルの成果を出すことができた。

(コメント)

- 1年弱という短い期間を考えると、一定水準以上の成果が出ていると評価できる。
- 特にホログラフィ技術については、世界トップレベルの水準まで成果を出せたことは大いに評価できる。
- 一方で、1年弱では目立った成果を出すことが非常に困難なこともあり、今後の研究進捗に大いに期待する。
- この1年で、3次元映像技術に向けられる世間の目は大きく変わった。眼鏡なしの3次元映像技術が脚光を浴びる時期が来ることを強く期待する。

## (1) 事業の目的および政策的な位置付け

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

### (総論)

本事業は、3次元映像に対する世間の注目が高まる中で、さらに一步進んだ眼鏡なしの技術を目指すものであり意義は高い。眼鏡なしの3次元映像技術による国際市場の獲得及び新産業の創出を目指すべきである。

#### (コメント)

- 眼鏡ありの3次元映像(映画、テレビ)が急に注目を浴びるようになった中で、眼鏡なしの3次元映像技術について取り組むことは大変意義がある。
- 緊急的に取り組むことで、眼鏡なしの3次元映像技術の実用化を前倒しできることは、国際競争力を高めるためにも必要であった。
- 民間のみでは経営的リスクが高く、国が積極的に取り組むことについても妥当である

## (2) 研究開発目標

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

### (総論)

当初の研究開発目標を達成することで眼鏡なしの3次元映像技術の普及促進に寄与することが可能であり、一部変動要素はあったが当初目標を維持できた。

#### (コメント)

- 本課題にて取り上げた目標は、眼鏡なしの3次元映像技術を確立していく上で、必ず通過しなければならない1ステップである。
- 各課題において、定量的な目標もきちんとたてられている。
- 状況の変化(補正予算の見直し)により、一部契約額の減額が実施されたにもかかわらず、当初の目標をほぼ変えることなく達成できている。
- 一方で、基本計画書に記載されている目標を1年で全て達成することはかなり困難であったと思われる。

### (3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

#### (総論)

研究開発委員会をうまく活用し、各技術の研究開発にうまくフィードバックできている。

#### (コメント)

- 研究開発委員会を4回実施しており、研究全体の総括も問題なくできている。
- 研究開発委員会では、多くの有識者から時には厳しい意見も受けつつそれぞれの研究に反映できている、うまくマネジメントできていると言える。
- 一方で、眼鏡なしの3次元映像技術について、まだそれぞれの技術が連携する段階ではなく相互に影響を及ぼすこともないことから、何らかのマネジメントを行う必要性はまだ生じていないとも言える。

### (4) 研究開発成果の達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

#### (総論)

当初計画通りの成果が得られており、一部技術では顕著な成果が出ていると認められる。

#### (コメント)

- 各技術とも、当初計画通りの成果が得られている。
- 特にホログラフィ技術については、世界でもトップレベルの成果が得られており、大いに評価できる。
- 一方で、継続して次年度以降も取り組まなければならない課題が多く、この段階での評価は難しい面もある。
- 個々の3次元表示技術について、それぞれの発展形が将来的に実用になりうるかどうか考察を深めてもらいたい。

## (5) 研究開発成果の展開および波及効果

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

### (総論)

各技術とも、成果の実用化に向けて着実に進捗した。

#### (コメント)

- 各技術とも、成果の実用化に向けて着実に進捗している。
- ホログラフィ技術については、実用化はまだ先の話であるが、現時点で世界のトップレベルに位置していることから、今後の研究がさらに進捗を誘発されることが期待できる。
- 他の技術についても本課題終了に伴いすぐ実用化という状況ではないが、そう遠くないうちに実用化に向けた知財戦略等が進むことを期待する。

## (6) その他(広報活動 等)

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

### (総論)

成果のアピールについては、一部で報道発表がなされたものの、次年度以降のさらなるアピールを期待する。

#### (コメント)

- 3D液晶パネルの開発について報道発表がなされており、一部でも成果をアピールできていることは評価できる。
- 他の技術についても、成果を早い段階で世間へのアピールできることを期待したい。
- 研究開発委員会については、基本計画書に記載のとおり開催されている。
- 3次元映像支援技術とも研究開発委員会で意見交換がなされ、相互の進捗確認など連携がとれた。